

砺波まで！

お家を見に行こう！

「ペンキと左官とアイアンとYOSIHIROと」

9/19 (土) 20 (日)

10:00 - 19:00



左側:透過性のないシェイド。光と影のコントラストが楽しめます。右側:ガラスのシェイド。きらきらした光と壁に映る影が綺麗です。



右写真は全体を明るくしているのに対し、左写真はスタンドとペンダントのみ点灯。あかりのたまりができることでちょっと大人の雰囲気になります。

冷夏といわれた今年の夏ですが、本来なら涼しくなってもよい頃に、ようやく夏到来！と言わねばかりの残暑。体調管理はしっかりしたいものです。

さて、今回は「あかり」についてお話ししたいと思います。

「あかり」といっても、照明器具や月明かり；等、様々な「あかり」がありますが、私たちの日々の生活にはなくてはならない物です。…の割には実用性が重視され、デザイン性や、生活の中で楽しむという面では御座なりにされがちです。

戦後の日本では高度経済成長と共に、照明器具は白い光の蛍光灯が普及し、どのお宅も「右、ならえ！」で蛍光灯の一室一灯型のあかりが一般的になりました。確かにランプの効率も良いですし、お部屋をまんべんなく照らしてくれるので物を見る上では申し分ないのですが、ちょっと色気がないなあ、と思ってしまいます。

最近では新築を機にペンダントや間接照明等を使用し、あかりをデザインするというお家が増えてきていますが、まだまだ天井の中央に蛍光灯様が「でんっ！」とのさばっているのが現状ではないでしょうか？

でも、そもそも日本人は、昔から障子や行燈のように、和紙を通して得る柔らかい光と棧の影のコントラストを楽しんできた人種です。現代においてもその繊細な感覚は受け継がれているはずで、ですから、もっと、ヨーロッパのようにあかりもインテリアとして取り入れるという意識が高くなれば、生活を楽しむ幅が広がるのではないかな、と思うのです。

という訳で、新築でなくても簡単にあかりを楽しむ方法はというと、スタンドやペンダント照明をインテリアに取り入れたり、キャンドルを使って空間を演出する方法があります。「なあんだ、今更そんなことか」と思われたかもしれませんが、意外とこの一歩ができてなかったりするのではないのでしょうか？これだけでも確実にお

あかりのありに…

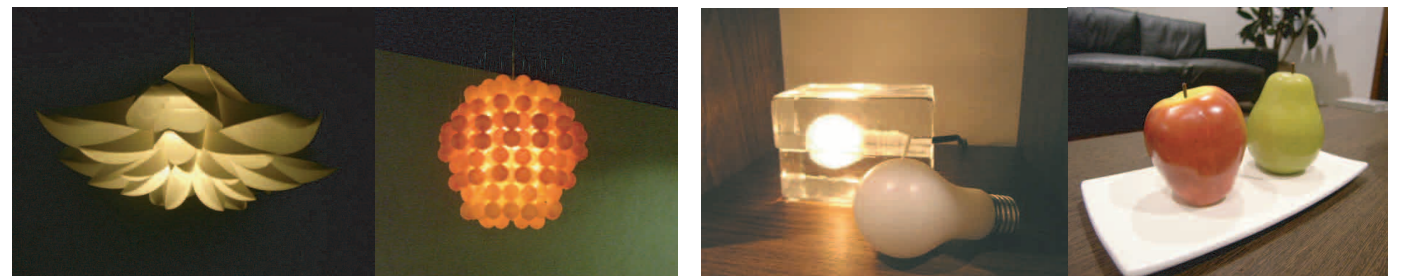
ZUIUN使い Vol.9

部屋の雰囲気は変わります。しかも配線工事などは必要ないですし、価格もお手頃な物がたくさんあるのでお手軽にチャレンジできるのも良いところです。例えば、スタンドと一言で言ってもシェイド（電球の外側の傘の部分）の種類でも空間の見え方は変わります。布製や紙であれば、柔らかい光がスタンド周囲に広がってやさしい雰囲気になるし、樹脂のように透過性のない物であれば光と影のコントラストや方向性のある光を楽しめます。ガラスならきらきらした光で空間をドラマティックに演出したりできますし、光そのものだけでなく、壁や天井に映る光と影も楽しめます。

またキャンドルも様々なデザインの物だけでなく、香り付の物や水に浮かぶもの、火を使うのは怖いという方には本物の火のように光が揺らぐキャンドル型の照明など、人それぞれの楽しみ方ができます。

お子様が寝静まってちょっと一息つく時や、お風呂上りのリラックスタイムに、いつもの天井照明を消して手元のスタンドの温かみのある光の中で一日の終わりを楽しむ…なんてちょっと贅沢な気分になると思いませんか？

そして、何より、温かみのあるあかりのあるところには、ほっとできる温かい空間と、幸せな家庭があるように感じませんか？きっと、そんなイメージが、あかりから得られる癒しの効果の正体なのではないでしょうか。そんなほっこり、あったかい時間を大事にしていきたいものです。



存在感のあるペンダント。でも実空間では意外と馴染みます。(左側の照明は上段右より2枚目写真にて使用しています。)

兄弟。でも手前の子はりんごとも…(分かりますか?)

香り付キャンドル